





2021年  
(令和3年)  
4月号  
(第785号)

発行者  
東京大学医学部 鉄門倶楽部  
会頭 岡部 繁男  
〒113-0033  
東京都文京区本郷 7-3-1  
東京大学医学部 鉄門倶楽部

### 鉄門だより

（七面より続く）  
医療現場でも、治療やケアの一端で芸術の力を借りることもあります。悩みの解決法を音楽や映画、文学の作品を紹介して提案したり、患者さんが心の葛藤に苦しんでいるときは、絵や文章を書くことで表現行為を介して解決を図るなど、相手の価値観に合わせて提案したりすることもあります。もちろん、こちらの価値観の押し付けはしません。人間の世界に消耗している人には、動物や植物を介して自然界に触れることも奨励しますね。東大病院時代にも必要に応じて提案はしていましたが、今は総合診療科という看板なので、より自然に行える気がします。まあ、よろず相談所のようなイメージですね（笑）

最後に、医学生へのメッセージをお願いします。  
新型コロナウイルスが流行する現在の情勢では実際の医療現場での経験は得られにくいと思います。ただ、だからこそ既存の医療を一步引いた視点から考え直すいい機会だとも思います。現場の医師は多忙で、一步引いた広い視点から医療を見つめ直すことが難しくなります。医学生の間には、医療システムの前提から新しく考え直し、医療の理想像や原風景の青写真を明確にイメージしてほしいです。そうでないとシステムの歯車となり、自分が正しい方向に向かっているか否かすら、分からなくなります。

かつては平均寿命が30〜40代で、医療の目標は寿命を延ばすことでした。

ただ、超高齢社会のいま求められるのはどう生きるかという質の問題です。時代は変化しています。患者さんに「あの先生はよく話を聞いてくれるからいい先生だ」と言われることが多いのは医療の本質を突いていると思います。それぞれの患者さんの価値観や人生観、死生観を尊重し、医療システムが価値観を押し付けず、天寿を全うする手伝いをする。理想の医療を、医師側だけではなく患者側からも想像して融合させてください。正解は一つではありません。対話は人間に与えられた素晴らしい能力です。鉄門の先輩・同窓生とも理想の医療や人生とは何か、対話を通して哲学を深めてほしいと思います。

情勢が許せば、軽井沢で医学生も含めた対話の会をしたいです。次の医療を担う学生さんと共に新しい医療を創造する場を作りたいです。芸術や音楽等も取り入れた新しい医学教育の場を共に育んでいきたいです。その際には医学生の皆さんもぜひとも遊びに来てください。軽井沢でお待ちしています。I ありがとうございます。

（編集部 鴨志田将  
金澤賢司・矢野孝信）  
計報欄への掲載を希望されるご遺族の方は、鉄門倶楽部まで葉書・メール・FAXでご連絡ください。  
東京大学医学部鉄門倶楽部事務局  
〒113-0033  
東京都文京区本郷 7-3-1  
Mail: club@m.u-tokyo.ac.jp  
FAX: 03-5689-4758